

長崎県佐世保文化財調査事務所調査報告書 第8集

一般国道497号伊万里松浦道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

III

今 福 遺 跡

2013

長崎県教育委員会

長崎県佐世保文化財調査事務所調査報告書 第8集

一般国道497号伊万里松浦道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

III

今 福 遺 跡



今福遺跡発掘調査区及び今福港遠景（南東から）

序

本書は、一般国道497号（西九州自動車道）伊万里松浦道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の通巻第Ⅲ分冊として、平成21年度から平成23年度まで実施した、今福遺跡の発掘調査成果を収録したものです。

長崎県教育委員会は、西九州自動車道建設事業につきましては、建設計画当初から可能な限り保存に努めるべく、埋蔵文化財の取り扱いについて国土交通省と協議し、記録保存してまいりました。埋蔵文化財は、数百年、数千年の間、さまざまな自然や人間による損失を辛うじて逃れ、奇跡的に現代に伝わったものです。私たちは、この埋蔵文化財により文献資料だけでは知ることのできない、貴重な祖先の生活の一部を知ることができます。特に本県が所在する西北九州は、歴史的な政治・社会状況からは周縁部にあたるため文献資料が限られており、地域の歴史を解明するためには埋蔵文化財に拘るところが大変大きいものとなります。現在を生きている私たちは、このように貴重な埋蔵文化財を大切に護り、これからも伝えていかなければなりません。歴史を失った民族は、記憶を無くした人間と同じです。何故、今ここに自分がいるのか分からぬ不安な存在です。過去から学び得ることもできず、現在、そして未来までも見失ってしまいます。

一方、現代社会は多様化を深め、県民の皆様の様々な要望にお答えするため、開発によるサービスのさらなる拡充も必要になっており、埋蔵文化財の保護と開発の両立が求められています。必要な開発は行いつつ、発掘調査を実施して埋蔵文化財をしっかりと記録保存し、その成果を発掘調査報告書により公にすることで、後世に伝えることが重要になっております。

今福遺跡の発掘調査成果が、文化財保護や地域の歴史資料、学術的資料として活用され、県民の皆様の関心に少しでも応えることが出来ればと考えております。また、本書の刊行にあたり、発掘調査に従事された方々をはじめ多くの方々にご尽力をいただきました関係者各位に対し、衷心から厚く御礼申し上げます。

平成25年3月

長崎県教育委員会教育長
渡辺 敏則

例　　言

- I 本書は、一般国道 497 号伊万里松浦道路（西九州自動車道）建設工事に伴う、埋蔵文化財発掘調査報告書である。調査は、国土交通省九州地方整備局長崎河川国道事務所の依頼を受け、長崎県教育委員会が平成 20 年度から平成 25 年度までの計画で実施している。
- II 当該工事に伴い、埋蔵文化財発掘調査を実施した遺跡は、八幡山城跡、中ノ瀬遺跡、今福遺跡である。本書は、そのうち今福遺跡の平成 21 年度から平成 23 年度の調査について収録する。
- III 今福遺跡発掘調査と本書の内容は、下記のとおりである。
- 1 今福遺跡は、長崎県松浦市今福町に所在する。
 - 2 調査は長崎県教育委員会を主体として、長崎県教育庁佐世保文化財調査事務所が担当したが、一部の業務は民間の調査組織（今福遺跡特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体）に委託し、協力して実施した。
 - 3 一部を除き、本書で使用した遺物の実測および遺物と遺構の製図は、生田次男、福永祐馬、加世田尊、竹本成美、山川瞳、佐々木俊介、富岡藤満、内業整理作業員（武尾栄子、畠原佐智子、中村直美、吉野貴子）が行った。石器実測の一部は、国際文化財株式会社に委託した。
 - 4 本書に収録した遺物データのコンピュータ処理は、国際文化財株式会社に委託した。
 - 5 本書に収録した遺物・図面・写真・コンピュータ処理データは、長崎県教育庁佐世保文化財調査事務所で保管している。
 - 6 本書の写真是、生田次男、福永祐馬、加世田尊、江上正高、佐々木俊介が撮影した。
 - 7 本書の執筆は、生田次男、福永祐馬、加世田尊、竹本成美、富岡藤満、杉原敦史が分担して担当し、執筆者は、本文目次に記した。
 - 8 本書の編集は、各執筆者が担当し、生田次男と杉原敦史が総編集を行った。
 - 9 本書では、旧河道は近世以前において生活の場の一部であったため、遺構の項に記載した。
 - 10 貿易陶磁器の分類は、太宰府市教育委員会『太宰府条坊跡XV』—陶磁器分類編—2000 の分類名稱に準拠した。
- IV 発掘調査と発掘調査報告書作成にあたり、発掘調査委託業者調査員・現場代理人・指導員、外業作業員、内業整理作業員などの皆様に協力・指導・助言をいただいた。特にお世話になった方の尊名を記して謝意を表したい。

清水宗昭先生（国際文化財株式会社指導員、元別府大学文学部教授、大分県考古学会会長）、山崎良二氏（国際文化財株式会社主任研究員）、土岐耕司氏（国際文化財株式会社主任研究員）、鶴久森彬氏（国際文化財株式会社調査員）、江上正高氏（松浦市教育委員会文化財課）

また、平成 23 年度緊急発掘調査現場代理人大西孝幸氏（国際文化財株式会社主任技師）は、過去の事故による足の痛みを押し、真摯に職責を全うされていたが、惜しくも調査期間中に急逝された。謹んで哀悼の意を表し、誠心よりご冥福を祈る。

本文目次

I	発掘調査の端緒と経緯（杉原）	1
1	西九州自動車道の概要と長崎県内の工事区間	1
2	発掘調査の経緯	1
3	今福遺跡緊急発掘調査及び報告書作成の体制について	3
II	遺跡の立地と環境（富岡）	4
1	地理的環境	4
2	歴史的環境	5
III	調査の概要	7
1	範囲確認調査（富岡）	7
2	緊急発掘調査（杉原）	10
IV	遺構・遺物	19
1	遺物包含層	19
(1)	②区・⑥区縄文時代遺物包含層出土遺物（土器）の分類（生田）	19
(2)	②区縄文時代遺物包含層（生田）	20
(3)	⑥区縄文時代遺物包含層（生田）	38
(4)	その他（加世田）	59
①	⑥区IVa層	59
②	⑥区IVd層	59
2	旧河道跡	67
(1)	SR-2（福永）	67
(2)	SR-5（）	74
(3)	SR-6（）	74
(4)	SR-7（）	75
(5)	SR-10（）	75
(6)	SR-12（）	78
(7)	SR-15（）	78
(8)	SR-17（竹本）	83
(9)	SR-18（）	86
3	その他（加世田）	101
V	まとめ（杉原）	103
VI	図版	105
VII	附録	114
1	縄文時代遺物包含層データ編集作業（業務委託）の概要及び所見（土岐・国際文化財株式会社）	114
2	今福遺跡における影響について（鶴久森・国際文化財株式会社）	118

挿図目次（1）

第1図	西九州自動車道進捗状況	1
第2図	伊万里松浦道路関係発掘調査遺跡位置図	2
第3図	松浦市内地質図	4
第4図	今福遺跡位置図	6
第5図	TP1～2西壁・TP3北壁土層断面図	8
第6図	TP1～3出土遺物	9
第7図	今福遺跡緊急発掘調査区及びグリッド配置図	10
第8図	今福遺跡縄文時代遺物包含地・主要旧河道配置図	11
第9図	土層図位置図	11
第10図	A-A'間北壁・B-B'間南壁土層断面図	12
第11図	C-C'間北壁・D-D'間西壁土層断面図	13
第12図	K-K'間東壁土層断面図	13
第13図	E-E'間北壁・F-F'間北壁・G-G'間南壁土層断面図	14
第14図	G-G'間南壁土層断面図	15
第15図	H-H'間北壁土層断面図	16
第16図	I-I'間北壁土層断面図	17
第17図	I-I'間北壁・J-J'間東壁土層断面図	18
第18図	②区縄文時代遺物包含層（III層）出土土器	21
第19図	石器・剥片巖形態図	22
第20図	②区縄文時代遺物包含層（III層）出土石器（1）	24
第21図	②区縄文時代遺物包含層（III層）出土石器（2）	25
第22図	②区縄文時代遺物包含層（III層）出土石器（3）	26
第23図	②区縄文時代遺物包含層（III層）出土石器（4）	27
第24図	②区縄文時代遺物包含層（III層）出土石器（5）	28
第25図	②区縄文時代遺物包含層（III層）出土石器（6）	29
第26図	②区縄文時代遺物包含層（III層）出土土器・石器分布図	30
第27図	②区縄文時代遺物包含層（III層）出土土器時期別分布図	31
第28図	②区縄文時代遺物包含層（III層）出土石器種別分布図	32
第29図	⑥区縄文時代遺物包含層（IVb層）出土土器・石器分布図	33
第30図	⑥区縄文時代遺物包含層（IVb層）出土土器時期別分布図	34
第31図	⑥区縄文時代遺物包含層（IVb層）出土土器種別分布図	35
第32図	⑥区縄文時代遺物包含層（IVb層）出土石器種別分布図	36
第33図	②区縄文時代遺物包含層（IVb層）出土石器（7）	37
第34図	⑥区縄文時代遺物包含層（IVb層）出土土器（1）	40
第35図	⑥区縄文時代遺物包含層（IVb層）出土土器（2）	41
第36図	⑥区縄文時代遺物包含層（IVb層）出土土器（3）	42
第37図	⑥区縄文時代遺物包含層（IVb層）出土土器（4）	43
第38図	⑥区縄文時代遺物包含層（IVb層）出土土器（5）	44

挿 図 目 次 (2)

第39図	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土土器(6) ······	45	第62図	SR-5出土遺物② ······	77
第40図	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土土器(7) ······	46	第63図	SR-6出土遺物 ······	77
第41図	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土石器(1) ······	50	第64図	SR-10出土遺物 ······	78
第42図	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土石器(2) ······	51	第65図	SR-12出土遺物 ······	79
第43図	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土石器(3) ······	52	第66図	SR-15出土遺物① ······	81
第44図	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土石器(4) ······	53	第67図	SR-15出土遺物② ······	82
第45図	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土石器(5) ······	54	第68図	SR-17~20 ······ 23 ~ 25配置図 ······	83
第46図	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土石器(6) ······	55	第69図	SR-17~20 ······ 23 ~ 25断面土層図 ······	84
第47図	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土石器(7) ······	56	第70図	SR-17出土遺物 ······	85
第48図	⑥区IV c層出土遺物(1) ······	60	第71図	SR-18出土遺物 ······	86
第49図	⑥区IV a層出土遺物(2) ······	61	第72図	SR-19出土遺物 ······	87
第50図	⑥区IV a層出土遺物(3) ······	62	第73図	SR-20出土遺物 ······	87
第51図	⑥区IV a層出土遺物(4) ······	63	第74図	SR-23出土遺物 ······	88
第52図	⑥区IV d層出土遺物(1) ······	64	第75図	SR-25出土遺物① ······	89
第53図	⑥区IV d層出土遺物(2) ······	65	第76図	SR-25出土遺物② ······	90
第54図	⑥区IV a ··· IV c層出土遺物 ······	66	第77図	SR-25出土遺物③ ······	91
第55図	SR-2 ··· 5 ··· 6 ··· 7 ··· 10 ··· 12 ··· 15配置図 ······	67	第78図	SR-26~30配置図 ······ 断面土層図 ······	94
第56図	SR-2 ··· 5 ··· 6 ··· 7 ··· 10 ··· 12 ··· 15断面土層図 ······	68	第79図	SR-26 ··· 27出土遺物 ······	95
第57図	SR-2出土遺物① ······	69	第80図	SR-28出土遺物① ······	96
第58図	SR-2出土遺物② ······	70	第81図	SR-28出土遺物② ······	97
第59図	SR-2出土遺物③ ······	71	第82図	SR-28出土遺物③ ······	98
第60図	SR2 ··· 7出土遺物 ······	72	第83図	SR-29 ··· 30出土遺物 ······	100
第61図	SR-5出土遺物① ······	76	第84図	出土錢貨 ··· 木製品 ······	102

表 目 次

第1表	西九州自動車道伊万里松浦道路間係発掘調査一覧	2	第22表	SR-10出土遺物観察表 ······	79
第2表	TP1~3出土遺物観察表 ······	9	第23表	SR-12出土遺物観察表 ······	79
第3表	平成21~23年度今福遺跡発掘調査概略 ······	10	第24表	SR-15出土遺物観察表① ······	79
第4表	⑥区縄文時代遺物包含層(III層)出土土器観察表 ······	22	第25表	SR-15出土遺物観察表② ······	80
第5表	⑥区縄文時代遺物包含層(III層)出土石器石種別組成表 ······	23	第26表	SR-17出土遺物観察表① ······	83
第6表	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土石器石種別組成表23		第27表	SR-17出土遺物観察表② ······	85
第7表	⑥区縄文時代遺物包含層(III層)出土石器観察表(1) ······ 37		第28表	SR-18出土遺物観察表 ······	86
第8表	⑥区縄文時代遺物包含層(III層)出土石器観察表(2) ······ 38		第29表	SR-19出土遺物観察表 ······	86
第9表	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土土器観察表(1) ······ 47		第30表	SR-20出土遺物観察表 ······	87
第10表	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土土器観察表(2) ······ 48		第31表	SR-23出土遺物観察表 ······	88
第11表	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土土器観察表(3) ······ 49		第32表	SR-25出土遺物観察表① ······	91
第12表	⑥区縄文時代遺物包含層(IV b層)出土土器観察表 ······ 57		第33表	SR-25出土遺物観察表② ······	92
第13表	⑥区IV a層出土遺物観察表 ······	63	第34表	SR-26出土遺物観察表 ······	95
第14表	⑥区IV d層出土遺物観察表 ······	65	第35表	SR-27出土遺物観察表 ······	95
第15表	⑥区IV a層出土遺物観察表 ······	66	第36表	SR-28出土遺物観察表① ······	99
第16表	⑥区IV c層出土遺物観察表 ······	66	第37表	SR-28出土遺物観察表② ······	100
第17表	SR-2出土遺物観察表 ······	73	第38表	SR-29出土遺物観察表 ······	100
第18表	SR-2 ··· 7出土遺物観察表 ······	74	第39表	SR-30出土遺物観察表 ······	100
第19表	SR-5出土遺物観察表① ······	74	第40表	出土錢貨 ··· 木製品観察表 ······	101
第20表	SR-5出土遺物観察表② ······	75	第41表	貿易陶磁器出土状況比較 ······	104
第21表	SR-6出土遺物観察表 ······	78			

図 版 目 次

図版 1	② ··· ⑥区縄文時代遺物包含層遺物出土状況 ······	105	図版 6	⑥区縄文時代遺物包含層出土遺物(2) ······	110
図版 2	⑥区縄文時代遺物包含層 ··· SR-27遺物出土状況 ······	106	図版 7	⑥区IV a ··· IV d層出土遺物 ······	111
図版 3	⑥区縄文時代遺物包含層出土遺物 ······	107	図版 8	⑥区IV d ··· IV a ··· IV c層 ··· SR-2出土遺物 ······	112
図版 4	② ··· ⑥区縄文時代遺物包含層出土遺物 ······	108	図版 9	SR-2 ··· その他の遺物包含層出土遺物 ······	113
図版 5	⑥区縄文時代遺物包含層出土遺物(1) ······	109			

I 発掘調査の端緒と経緯

1 西九州自動車道の概要と長崎県内の工事区間（第1図）

昭和62年6月30日旧建設省は、道路審議会答申に基づき、14,000kmの高規格道路網計画を決定した。この高規格道路網の一環として、九州西北部の地域経済の活性化、高速定時制の確保に大きく寄与するため、西九州自動車道は計画された。福岡市を起点に、唐津市、伊万里市、佐世保市を経由し武雄市に至る約150kmの一般国道の自動車専用道路である。

長崎県は、高規格道路をはじめ幹線道路網の整備を、県民の豊かな暮らしを支える重要な課題とし、県内主要都市を2時間程度で結ぶ道路ネットワーク構想を定め、景観や自然との調和を図りながら整備を推進している。西九州自動車道の県内路線は、4区間に分けられる。「佐世保道路」（佐世保みなとIC～相浦中里IC区間約7.9km）と、「佐々佐世保道路」（相浦中里IC～佐々IC区間約4km）の2区間は既に供用を開始している。「伊万里松浦道路」（佐賀県伊万里市～長崎県松浦市間約17km）は埋蔵文化財発掘調査中及び着工区間、松浦～佐々間（松浦市～北松浦郡佐々町間約19km）は国土交通省が着工に向けて調査中である。



2 発掘調査の経緯（第2図・第1表）

発掘調査は、国土交通省九州地方整備局長と長崎県知事との委託事業契約により、長崎県教育庁佐世保文化財調査事務所が担当して実施している。「佐世保道路」と「佐々佐世保道路」に問わる調査は既に完了し、発掘調査報告書も既刊である。

「伊万里松浦道路」関係では、平成17・18年度に工事計画区域内の分布調査を実施し、八幡山城跡、

中ノ瀬遺跡、今福遺跡等を確認した。予定した調査面積約48,000m²の内、八幡山城跡、中ノ瀬遺跡の調査は完了し、発掘調査報告書も刊行済みである。今福遺跡の調査は、平成21年度から継続して実施し、平成24年度までに完了する予定であったが、平成24年度には用地買得等の都合により調査を行うことができなかつたため、平成25年度まで延びることとなった。なお、太郎浦岩陰については、過去に遺物が採取されていることや立地環境等から遺跡と考えられたが、試掘・確認調査の結果、少なくとも現在は遺跡たり得ず、緊急発掘調査の実施・発掘調査報告書の刊行は必要ないと判断した。隣接していた炭坑等に伴い人为的に破壊された可能性が考えられる。



第2図 伊万里松浦道路関係発掘調査遺跡位置図（国土交通省作成資料「道路計画概要図」に加筆）

遺跡名	調査区分	調査面積	調査期間	発掘調査報告書
八幡山城跡	範囲確認調査	72m ²	平成20年 5月19日～平成20年 6月20日	平成22年度刊行
	緊急発掘調査	8,257m ²	平成21年 6月19日～平成22年 3月15日	
中ノ瀬遺跡	範囲確認調査	70m ²	平成20年11月17日～平成20年11月28日	平成23年度刊行
	緊急発掘調査	4,800m ²	平成20年11月18日～平成21年 3月18日	
	緊急発掘調査	12,759m ²	平成21年 6月12日～平成22年 3月16日	
今福遺跡	範囲確認調査	276m ²	平成21年 5月11日～平成21年 6月 4日	平成24年度刊行
	緊急発掘調査	1,800m ²	平成21年10月16日～平成22年 3月16日	
	緊急発掘調査	10,300m ²	平成22年 5月18日～平成23年 3月16日	
	緊急発掘調査	6,600m ²	平成23年 6月15日～平成24年 2月20日	
	緊急発掘調査	2,700m ²	平成25年度実施予定	平成26年度刊行予定
太郎浦岩陰	試掘確認調査	81m ²	平成24年 2月13日～平成24年 3月 1日	刊行せず
	緊急発掘調査	0m ²	調査実施せず	

第1表 西九州自動車道伊万里松浦道路関係発掘調査一覧

3 今福遺跡緊急発掘調査及び報告書作成の体制について

緊急発掘調査は、長崎県教育委員会を主体として、下記の調査体制により佐世保文化財調査事務所が担当した。現場を担当したのは、杉原以下である（なお、平成 21 年度に実施した範囲確認調査は、主任文化財保護主事杉原敦史、文化財調査員江上正高、同柴田妃三光、同矢葺都子が担当した）。また、「一般国道 497 号西九州自動車道埋蔵文化財発掘調査委託業務」として、民間の調査組織（今福遺跡特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体）に一部業務を委託し、協力して実施した。委託業務の内容は、発掘調査作業員の雇用・安全対策等、遺構実測、空中写真撮影、重機掘削・排土運搬、仮設市道・水路設置等である。

発掘調査報告書の作成は、佐世保文化財調査事務所員を中心に実施したが、発掘調査減少による職員数削減のため、「埋蔵文化財発掘調査遺跡出土遺物実測等業務委託」として、一部の業務（石器 300 点の実測・トレース作業、縄文遺物包含層デジタルデータ編集作業）を民間委託した。

【平成 21～23 年度 今福遺跡発掘調査体制】

長崎県教育庁佐世保文化財調査事務所

所長 副島 和明（平成 21～23 年度）

係長 山村 智成（平成 21・22 年度） 萩野 雅寛（平成 23 年度）

村川 逸朗（平成 21～23 年度） 杉原 敦史（平成 22・23 年度）

主任文化財保護主事 杉原 敦史（平成 21 年度）

文化財保護主事 富岡 藤満（平成 23 年度）

文化財調査員 江上 正高（平成 22 年度） 矢葺 都子（平成 22 年度）

半田 章（平成 21～23 年度） 浦川 智行（平成 21 年度）

川上 儀明（平成 21・22 年度） 福永 祐馬（平成 22・23 年度）

生田 次男（平成 22・23 年度） 加世田 尊（平成 22・23 年度）

松田葉津子（平成 23 年度） 佐々木俊介（平成 22・23 年度）

竹本 成美（平成 23 年度）

【一般国道 497 号西九州自動車道埋蔵文化財発掘調査委託業務 今福遺跡特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体】

平成 21 年度 大成エンジニアリング株式会社・株式会社創建

平成 22 年度 国際文化財株式会社・株式会社三基

平成 23 年度 国際文化財株式会社・株式会社三基

【平成 24 年度 今福遺跡発掘調査報告書作成体制】

長崎県教育庁佐世保文化財調査事務所

所長 古門 雅高 課長 萩野 雅寛 係長 杉原 敦史

文化財保護主事 富岡 藤満

文化財調査員 山川 瞳 福永 祐馬 生田 次男 加世田 尊 竹本 成美

内業整理作業員 武尾 栄子 畑原佐智子 中村 直美 吉野 貴子

【埋蔵文化財発掘調査遺跡出土遺物実測等業務委託】

国際文化財株式会社

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境 (第3図)

松浦市は九州北西部、長崎県本土の北端、東シナ海に突出した形状の北松浦半島北部に位置する。東は佐賀県伊万里市、西は平戸市、南は佐世保市と接する東西に長い市域である。北には伊万里湾を臨み、沖合に青島・飛島や旧北松浦郡域の鷹島・福島が浮かぶ。さらに、東シナ海を介すると遠くは朝鮮半島や中国大陸に至る。

松浦市の地質は、新生代第三紀層を基盤とし、その上に玄武岩層が広く堆積する構造となっている。第三紀層とは、佐世保及び北松炭田を支えた炭層をもつ砂岩・泥岩の堆積岩で、佐世保層群と野島層群に分けられ、地盤変動や侵食作用を受け、断層が多くみられる。また玄武岩層は、北松浦半島を中心として西北九州に広く分布している松浦玄武岩で、典型的な溶岩台地である。一帯は当時、伊万里市南方を中心として噴出した一大楯状火山であったため、玄武岩台地の周辺に切り立った断崖の直下には、ゆるやかな山麓や丘陵が発達している。この第三紀層と松浦玄武岩の間には、八ノ久保砂礫層が挟まっているため豊富な湧水も多く、古くから農業生産がさかんな土地であった一方で、「北松型地すべり」が多発する地域としても知られ、しばしば地すべりが起きている。

本遺跡は松浦市の東部、佐賀県伊万里市との県境に近い今福町仮坂免・浦免に所在する。今福の市街地は、東部に城山、西部に白井岳、南部に国見岳など、三方を玄武岩台地の山々に囲まれた凹地に立地しており、標高が南高北低の地勢を呈している。

遺跡の東側には、国見岳を中心に人形石山・石倉山を源流として第三紀層を削り北流し、伊万里湾へと注ぐ流路延長 1.8 km の 2 級河川の今福川が流れ、河口には沖積層が堆積した三角州が発達している。流路が短く、急傾斜地を流れるため、今福川は大雨等による氾濫がたびたび起きており、その結果、流路が変化し、役割を失った旧河道跡が多く検出されている。

近世以降の干拓により、現在の海岸線は遠のいたが、当時は遺跡付近まで迫っていたと考えられる。



第3図 松浦市内地質図

〔地質調査所編 1989『地域地質研究報告』と松浦市教育委員会
編 1991『田川遺跡』をもとに作図。〕

2 歴史的環境（第4図）

松浦市は古くから人類の出現を物語る遺跡が確認されており、また『魏志倭人伝』に出てくる「末蘆國」の一部であるとされる。海上交通の要衝として大陸との交流が行われたほか、大陸と中九州を結ぶ中継地であったと思われる。特に松浦市東部に位置する今福は、その立地条件などから重要な役割を果たしていたと考えられる。ここでは、今福を中心とした松浦市東部について述べる。

旧石器時代～繩文時代の遺跡として、金ヶ崎半島内陸部にナイフ形石器や台形石器などが見つかった満場遺跡のほか、北平遺跡、城山山麓遺跡がある。また、今福東部内陸部に山川遺跡が、西部調川地区に柳池遺跡や雨久保遺跡がある。なお、当該調査遺跡である今福遺跡では、平成8年度の松浦市教育委員会の調査で、繩文時代後期～晩期頃の土器や石器が出土している。

弥生～古代の遺跡として、今福川流域に今福小学校遺跡、中ノ瀬遺跡、今福遺跡が、金ヶ崎半島西岸にぎざぎざ浜遺跡がある。中ノ瀬遺跡では、弥生中期と思われる土壤を伴う炉跡がある円形プランの堅穴式住居跡が4基検出され、一定規模の集団生活が営まれていたことが窺える。

中世の遺跡としては、中ノ瀬遺跡や今福遺跡、梶谷城跡で中国や朝鮮産の貿易陶磁器などが出土している。梶谷城跡は、宗家松浦氏の祖とされる源久が築城したとされる。松浦氏の系譜『松浦家世伝』によると源久とは、1069（延久元）年、宇野御厨檢校として今福に下向、以後松浦姓を名乗った人物とされ、その後一族は御厨領内に独立、分散して松浦党とよばれた。今福には、久を祀る今宮神社や今福神社、菩提所の旧宛陵寺跡、中興の祖とされる松浦勝を祀る若宮神社が点在し、宗家松浦氏の拠点だったことを窺わせる。15世紀に松浦盛が佐世保相浦地域に拠点を移した後も、松浦盛・親の墓や朝鮮出兵で討死した松浦定らを弔った供養塔が残ることから、その後も宗家松浦氏にとって繋がりの深い場所だったことが推察される。また今福遺跡の東にある八幡山城跡は切岸跡などが検出され、遺構などから概ね15～16世紀後半頃のものと位置づけられる。1563（永禄6）年、宗家松浦氏との戦いに勝利した平戸松浦氏の支配下に置かれた。

近世になると、今福は一時、平戸松浦氏から旗本今福氏の所領として分地されたが、1790（寛政2）年に知行所支配が平戸藩に委任され、押役所が設置された。江戸中期からは、塩焼や製鉄などの需要により今福赤岩で石炭の採掘が開始され、幕末には軍艦用として長崎に移出された。

近代・現代でも、引き続き八幡山などで石炭の採掘が行われ、炭鉱景気にわいた。今福港も石炭の積み出しでにぎわい、また陸上輸送手段として、1945（昭和20）年に国鉄松浦線が開通した。しかし1967（昭和42）年、飛島炭鉱を最後に市内の炭鉱は閉山した。

2006（平成18）年、松浦市は北松浦郡鷹島町、福島町と合併して新生「松浦市」が誕生。現在に至っている。

【参考文献】

松浦市史編纂委員会編 1975『松浦市史』松浦市史編纂委員会

瀬野精一郎監修 2001『長崎県の地名』平凡社

中田敦之・高原愛 1998『今福遺跡』松浦市文化財報告書第14集

中田敦之・明石拝子 2003『松浦市内遺跡確認調査(4)』松浦市文化財報告書第19集

矢葺都子編 2011『八幡山城跡』長崎県佐世保文化財調査事務所調査報告書第6集

江上正高編 2012『中ノ瀬遺跡』長崎県佐世保文化財調査事務所調査報告書第7集



- | | |
|------------|---------------|
| 1 今福遺跡 | 11 大塔遺跡 |
| 2 中ノ瀬遺跡 | 12 柳池遺跡 |
| 3 八幡山城跡 | 13 雨久保遺跡 |
| 4 北平遺跡 | 14 若宮神社 |
| 5 満場遺跡 | 15 松浦丹後守勝の墓 |
| 6 ぎぎが浜遺跡 | 16 松浦丹後守盛の墓 |
| 7 梶谷城跡 | 17 文禄の役松浦家供養塔 |
| 8 城山山麓遺跡 | 18 今福神社(歳の宮) |
| 9 山川遺跡 | 19 旧宛陵寺跡 |
| 10 今福小学校遺跡 | 20 今宮神社 |



第4図 今福遺跡位置図

(S=1/25,000)